



The New Color of Money
Safer. Smarter. More Secure.

www.moneyfactory.gov/newmoney

偽造抑止

連邦準備制度、財務省および米国財務省検察局は、偽造に対する米国通貨の信頼性を守るために通貨デザインの改善と積極的な法執行に引き続き取り組んでいきます。

- 通貨偽造の発生は、過去100年以上にわたり常に低く保たれてきました。
- 偽造犯による最新技術の利用がしだいに増加しているにもかかわらず、関係当局による偽造抑止策の推進によって、偽造発生率は低く抑えられてきました。最近の統計では、世界市場に出回っている偽の10ドル紙幣は、本物の10ドル紙幣10,000枚につき1枚未満と推定されています。¹
- 統計によると、全世界で偽造された米国通貨の量は、現在流通している本物の米国通貨の1パーセントにも満たないことが明らかとなっています。
- 1996年に初めて導入された最新の通貨デザインには、偽造をより困難にし、金融機関や現金取扱い業務に携わる方だけでなく、一般の方々にも簡単に判別ができるよう安全対策上の特徴が採用されています。
 - 安全対策上の特徴は分かりやすく、一般の方々による偽造通貨の判別にも役立ちます。
 - **カラーシフティング・インク**：紙幣表面の右下の隅にある数字をご覧ください。紙幣を上下に傾けると、カラーシフティング・インクの色が赤褐色から緑色に変わります。

¹ 連邦準備制度



- 透かし：紙幣を光にかざすと、肖像画によく似た透かしがご覧いただけます。透かしは紙の一部で、紙幣の両面から見えます。
- 偽造防止糸：紙幣を光に向けてかざし、紙に埋め込まれた、紙幣の片側に垂直に伸びる偽造防止糸（合成纖維の糸）を探してください。この糸は紙幣の両面から見えるもので、紫外線の下で光ります。
- 米国紙幣に施された安全対策上の特徴は模倣が非常に困難なため、現金を取り扱う仕事に従事している方や一般の人々がほとんど紙幣の確認をしないことを見込んで、偽造犯達はあえてその特徴部分の模倣を試みないこともあります。
- 米国財務省検察局は、世界中の銀行や法執行当局と協力し偽造活動の抑制を行っています。
- 積極的な法の執行により、関係当局は大部分の偽造米国紙幣を、市場に出回る前に押収しています。
 - 2005年度には、米国財務省検察局と各国の関係当局は、5,300万ドル分の偽札を、市場に出回る前に押収しました。これとは別に、市場に出回っていた6,100万ドル分の偽造米国通貨も押収し、世界中の市場から撤去しました。こうしたケースでは、偽札を手にした、罪なき被害者の方々が経済的損失を被りました。²
 - 2005年、米国財務省検察局は、米国内での紙幣偽造活動3,717件を検挙しました。偽造の罪で起訴されたもののうち約97.4パーセントが有罪判決を受けています。³
 - 2005年度に米国市場に出回った偽造紙幣の約40%が米国以外の場所で製造されたもので、同値は2004年には約36%、2003年には約42%でした。⁴
- 広報活動、法の執行、強化された安全対策上の特徴および社会認識の向上により、米国通貨の偽造は低いレベルに抑えられてきました。

2 The U.S. Secret Service

3 The U.S. Secret Service

4 The U.S. Secret Service

テクノロジーの進歩によりデジタル技術による偽造がより簡単・安価にできるようになり、偽造のデジタル化が急激に進んでいます。

- 過去10年の間にデジタル機器の入手が一般大衆にとって容易となつた結果、デジタル技術を使用して製造された偽札の数が増大しました。米国国内で摘発されたすべての偽造紙幣の中でデジタル技術を使用して製造された偽札は、1995年では1パーセント未満でしたが、2005年には約52パーセントにまで増大しました。⁵
- 2005年、米国財務省検察局は通貨の偽造行為に使用されたコンピュータなどデジタル機器584台を押収しました。⁶
- 海外では旧来のオフセット印刷による紙幣偽造が一般的である一方で、米国内ではデジタルによる偽造が更なる広がりを見せてています。

デジタル技術と洗練されたオフセット印刷の違いに係らず、米国紙幣は偽造犯からの数多くの脅威にさらされています。米国政府は7~10年ごとに通貨の更新を図り、偽造犯を先んじていく予定です。

- 米国紙幣の偽造対策は継続的なプロセスで、紙幣デザインの評価の継続的な実施、および新たな安全対策の導入により、政府は効果的に偽造犯の一歩先を進んでいます。
- 今回の新10ドル紙幣は2006年3月2日に発行され、米国紙幣の新シリーズの最新紙幣です。新シリーズは、2003年10月9日に発行された20ドル紙幣から始まり、2004年9月28日には50ドル紙幣が発行されました。

新しい10ドル紙幣は、より安全で、より洗練され、そしてより安心です。つまり、偽造が困難であるとともに判別しやすいためより安全で、技術を駆使した偽造犯の一歩先をいくよう洗練され、米国通貨の信頼性を守るためより安心です。

5 The U.S. Secret Service

6 The U.S. Secret Service

- 新10ドル紙幣は、1990年代に初めて導入され、簡単に判別できる安全対策上の3つの特徴を引き続き採用しました。つまり、透かし、偽造防止糸を有するとともにカラーシフティング・インクが施されています。
- 消費者の方が、色を利用して紙幣が本物かどうかを判別することは避けるべきですが、色が追加されたことで、紙幣の複雑さが増し、偽造が困難になっています。

安全対策上の特徴は、一般の方々に理解してもらうことによって、より効果的なものとなります。認識を高めるために、米国政府は、世界中の方々に新10ドル紙幣の登場を告知し、安全対策のための特徴の理解を深めるとともに、その活用を推進する啓蒙活動に取り組んでいます。10ドル紙幣を最も頻繁に取り扱うこととなる金融および小売業界や、レジャー産業などの現金取扱者などを対象としていますが、さらに現金取扱機械メーカー、事業団体およびメディアを通じた一般の人々も対象にしています。

- 安全管理のための特徴の活用方法を知っておくことで、価値の全くない偽造紙幣を手にすることは避けられます。
- 最近の統計では、世界市場に出回っている偽の10ドル紙幣は、本物の10ドル紙幣10,000枚につき1枚未満と推定されていますが、万一、偽札を手にすることになった場合には、貴重なお金を失うことになります。偽造紙幣を届けても、本物と換えてもらうことはできず、それと知った上で偽造紙幣を使用することは違法行為となります。